

特集2 国内最高齢のニホンイヌワシ

「鳥海」の歴史

飼育展示担当 副参事 三浦 匡哉



2004年1月

今年4月24日、大森山動物園を代表する動物がその生涯を終えました。大森山動物園の歴史そのものといってもいい動物、ニホンイヌワシ、その名を「鳥海」といいました。鳥海のおゆみをご紹介します。

	年齢	出来事	解説
1970 (昭和45)年	0	7月上旬 鳥海山麓で2羽保護。 8月3日 秋田市児童動物園で受け入れ。	①
1973 (昭和48)年	3	9月1日 現在の大森山動物園に引越す。	
1980 (昭和55)年	10	3月20日 2羽の間に初めて卵が生まれたが、無精卵。	②(写真)
1989 (平成 元)年	19	最初のパートナー白滝死亡。 たつ子が次のパートナーとなった。	③
1996 (平成 8)年	26	たつ子は別の雄、青葉とペアを組む。	
1997 (平成 9)年	27	たつ子と再度ペアリング。 青葉から採取した精液でたつ子の人工授精に取り組む。	④
2001 (平成13)年	31	たつ子が多摩動物園から来園した雄、信濃とペアを組む。	
2005 (平成17)年	35	西目が鳥海の3番目のパートナーとなった。	
2009 (平成21)年	39	鳥海×西目ペアで初めて卵が生まれたが、無精卵。	
2010 (平成22)年	40	鳥海×西目ペアで産卵あり。有精と確認され、孵卵器に入れて孵化を待ったが、残念ながら孵化に至らず。	
2012 (平成24)年	42	徐々に衰えが目立ち始め、両眼の視力も落ち始めた。	
2014 (平成26)年	44	右足に力が入らず、飛べなくなり動物病院で余生を送ることになる。	(写真)
2016 (平成28)年	46	11月、大森山動物園内で高病原性鳥インフルエンザが発生	⑤
2017 (平成29)年	47	公益財団法人日本動物愛護協会の日本動物大賞功労動物賞を受賞。 4月21日 朝から体調を崩したため、診療室に移動し、治療を開始。 4月24日 15時38分死亡を確認、安らかな最期であった。	⑥(写真) ⑦

① 鳥海山麓の奈曾渓谷で2羽のイヌワシが地元の人に保護され、2羽はその後、千秋公園にあった秋田市児童動物園に受け入れられました。当時、日本の動物園でのイヌワシ飼育は上野動物園、熊本市動物園のみで手探りの飼育でした。



開園当初のイヌワシ舎で 鳥海(左)と白滝

② 「鳥海」と「白滝」と名付けられた2羽の間に初めて卵が生まれました。残念ながら無精卵でしたが、引き続き自然繁殖を目指しました。一方で鳥海の精液が採取できたため、人工繁殖の可能性も模索しましたが、結果ができませんでした。ただ、調査の

結果、イヌワシの産卵間隔が4日(96時間)、卵を取り上げると補卵性が動き、最大6個産めることがわかりました。

③ 白滝が亡くなり、田沢湖の近くで保護された「たつ子」が次のパートナーになりました。鳥海とたつ子は相性も良く自然繁殖の期待が高まりましたが、5年経っても有精卵が取れませんでした。



2004年8月

④ 鳥海とたつ子で再度ペアリングしましたが、「青葉」から採取した精液でたつ子の人工授精に取り組みました。その結果、翌年有精卵が生まれましたが、残念ながら孵化に至りませんでした。

⑤ 鳥海が暮らす動物病院で11月15日、高病原性鳥インフルエンザが発生しました。鳥海を守るための厳重な管理体制が敷かれ、翼を広げられない環境で1か月ほど管理していたため、筋力の低下や、バランスが取れなくなるなどの悪影響が現れました。そこで、飼育箱から出し様子を見ることにしました。食欲はある程度あったので、代謝改善薬や肝機能薬、ビタミン剤などを餌に混ぜたところ、次第に元気を取り戻していきました。



日本動物大賞功労動物賞授賞式の様子(右:佐々木 祐紀 職員)

⑥ 47歳になった鳥海は、日本国内はもちろん世界的にも最長寿のイヌワシと考えられ、また大森山動物園におけるイヌワシ飼育の礎であること等が評価され、3月22日に公益財団法人日本動物愛護協会から日本動物大賞功労動物賞を授与されました。



2017年3月 動物病院での鳥海

⑦ 朝から姿勢を維持できないなど、体調を崩したため、診療室に移動し治療を開始しましたが、年老いた鳥海の状態を考えると、できることが限られるため、過剰な手当はせずに対症療法を施すことにしました。4月24日15時38分に静かに息を引き取りました。

4月29日から5月14日までビジターセンターに献花台を設けたところ、鳥海を最初に保護していただいた方のご家族をはじめ、多くの来園者からお花や在りし日の写真、メッセージ等をいただきました。

動物病院にいた鳥海は、眼もあまり見えず、飛びこともできませんでしたが、「鳥海さん」と呼びかければ、高い声でピーピー答えてくれ、寝室から屋外のケージまでよちよちと歩く姿が忘れられません。屋外のケージでは、年老いた姿ではありましたが、凜とした姿で多くの人に愛されました。子孫こそ残せませんでした。鳥海はそれ以上に大切なものを大森山動物園にたくさん残してくれました。

「鳥海さん、お疲れ様でした。これからも大森山動物園を見守り続けてくださいね!」



たくさんの人からメッセージやお花が届けられた献花台